

日田 川・まち みらいづくり懇談会

～ 第3回～

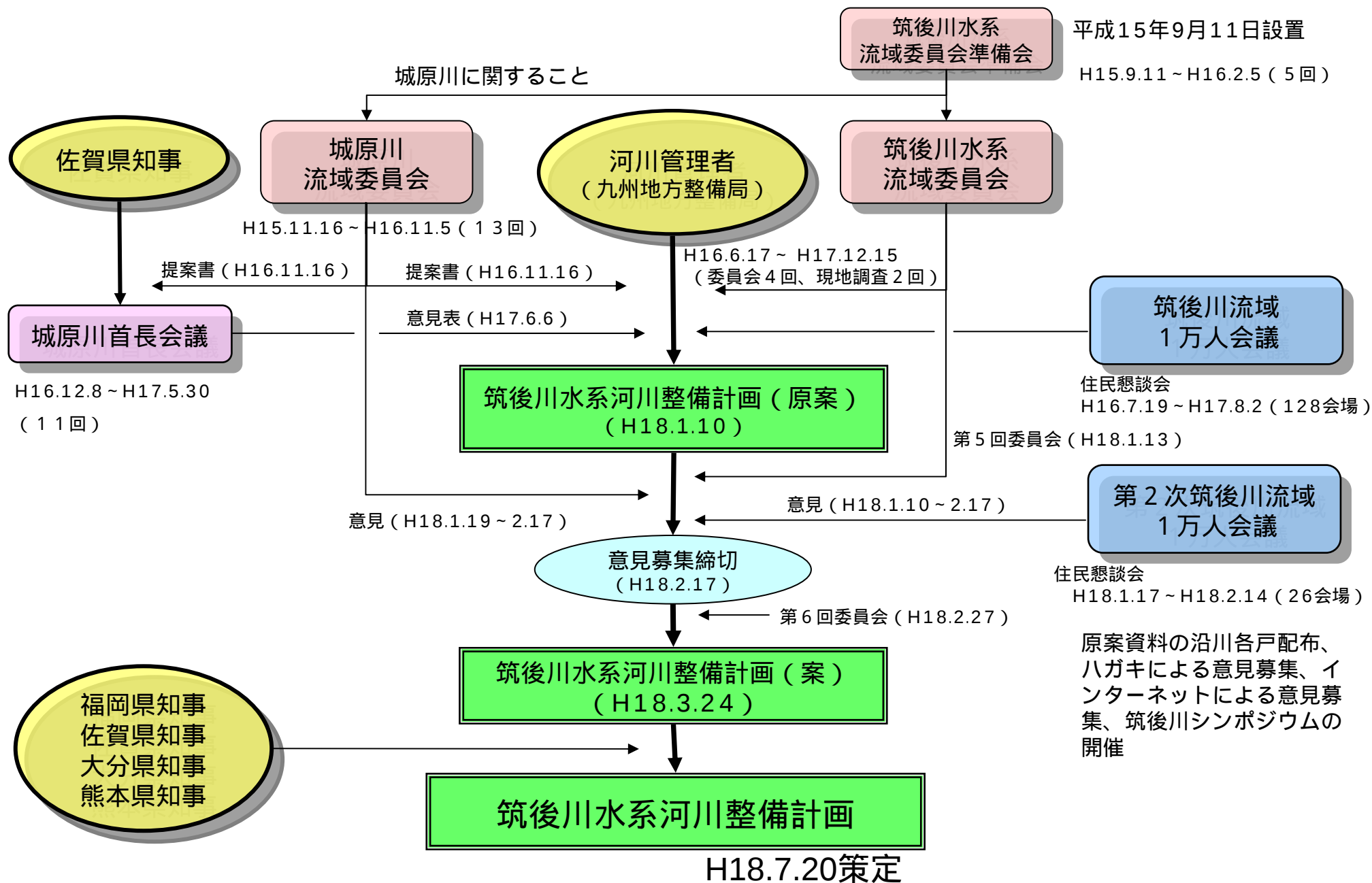
平成18年9月25日(月)

筑後川水系河川整備計画 について

～ 筑後川河川整備に関する日田市住民説明報告会 ～

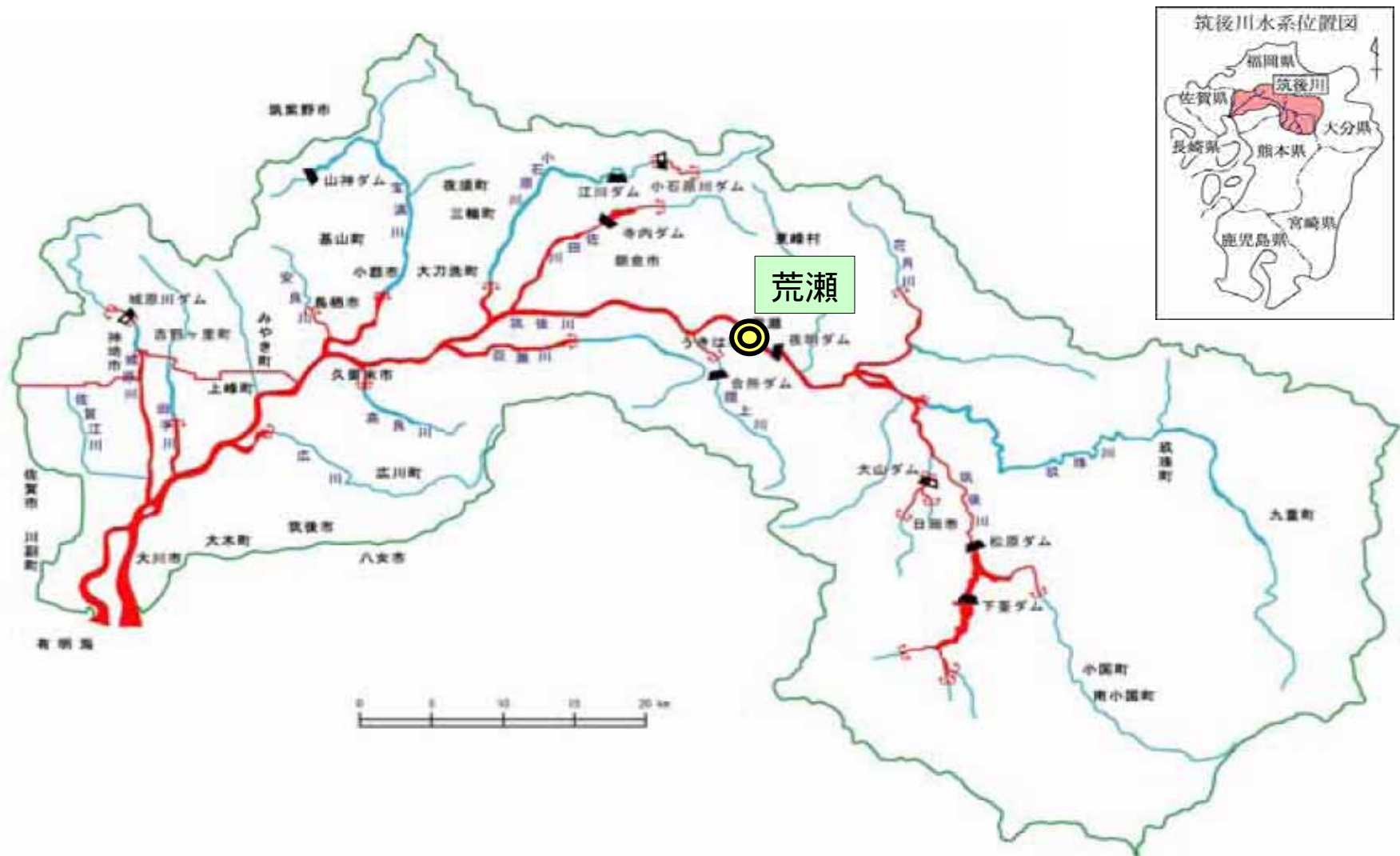
平成18年9月
筑後川河川事務所

筑後川水系河川整備計画の策定までの流れ

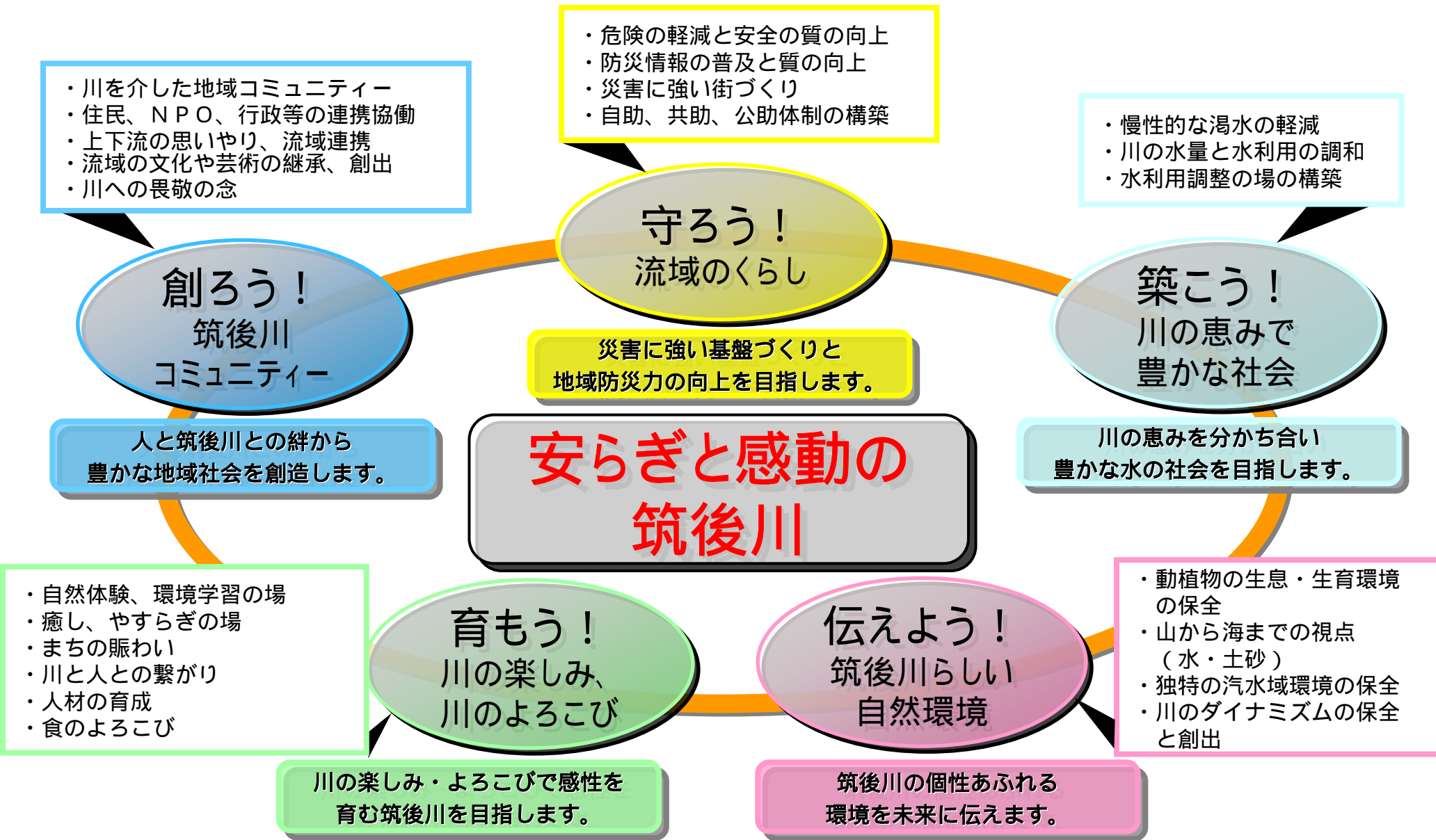


計画対象区間及び計画対象

- 計画対象区間：筑後川水系の大臣管理区間
- 計画対象期間：概ね30年



河川整備の基本理念



流域の視点で、これらを一体的・総合的に取り組みます。さらに筑後川が創り出した歴史的・文化的環境に配慮します。

河川整備計画の目標流量

河川整備計画の目標流量は、 $6900\text{m}^3/\text{s}$ (基準地点荒瀬)

【概ね50年に1回の確率で発生する洪水規模】



支川については、筑後川本川と整合のとれた治水安全度を確保

(参考)

河川整備基本方針

水害発生の状況、水資源の利用の現況及び開発、河川環境の状況を考慮し、長期的な河川整備の基本方針を定めたもの。

河川整備計画

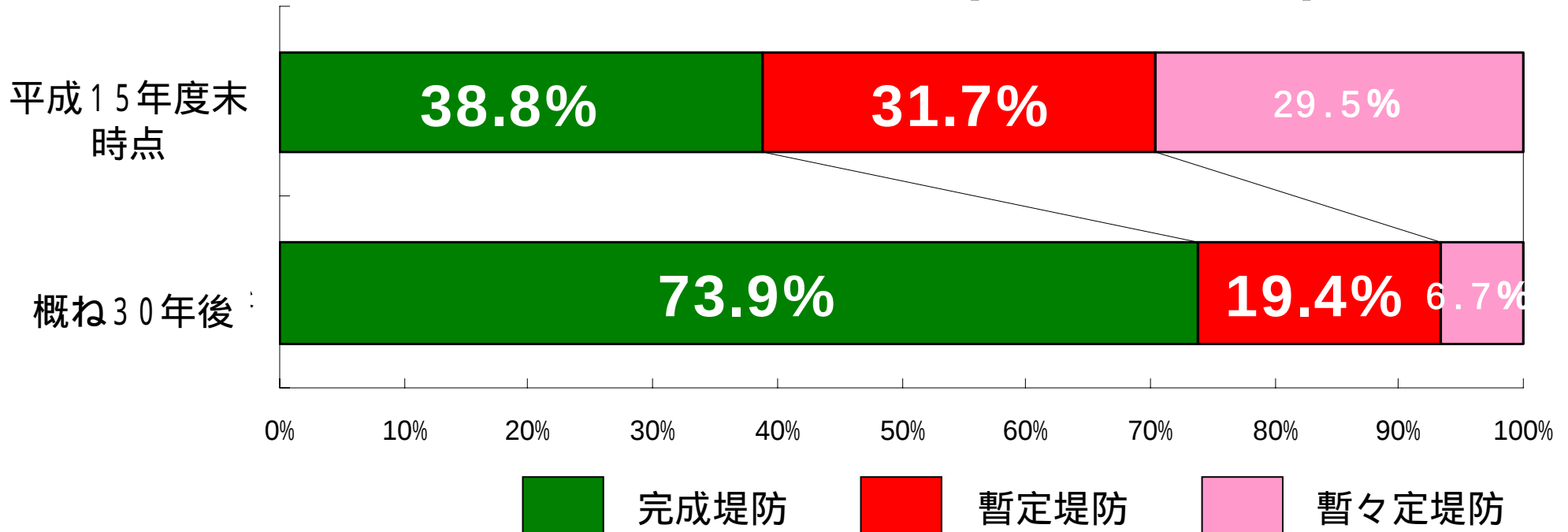
河川整備基本方針に沿って今後約30年の具体的な工事や維持管理について計画を定めたもの

筑後川水系河川整備基本方針(平成15年10月2日策定)は、概ね150年に1回の確率で発生する洪水規模に対応

堤防の整備率

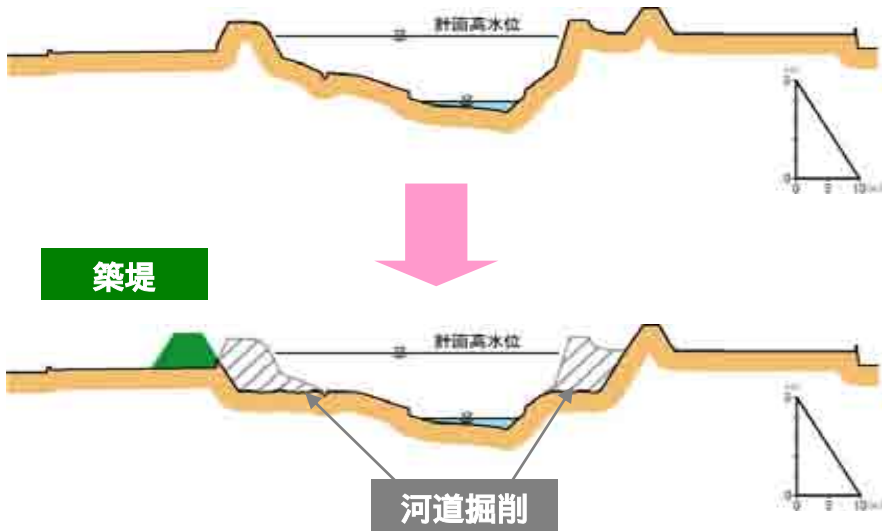
洪水対策としての堤防整備により、概ね30年後には大臣管理区間における完成堤防は、現在の約39%から約74%になります。

筑後川本川及び支川（大臣管理区間）



完成堤防に比べ高さや幅が不足しているもので、計画高水位以上の高さを有するものを暫定堤防、それ以下の高さのものを暫々定堤防としています。

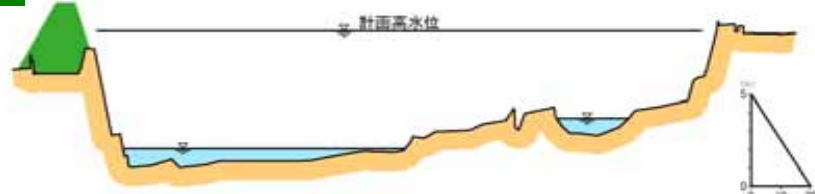
【花月川】



凡 例	
	築堤等
	河道掘削

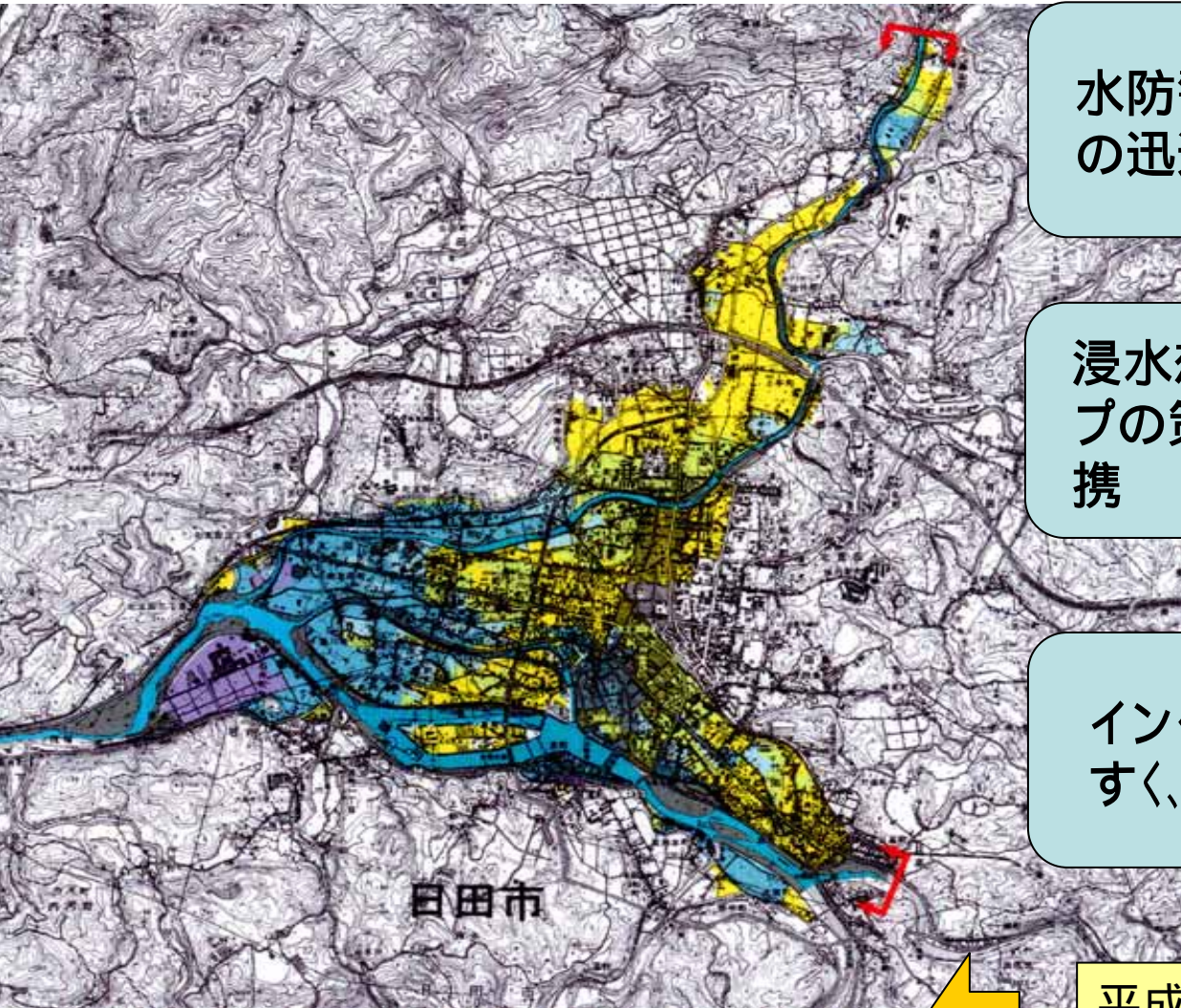
【筑後川】

築堤



地域への防災情報の提供

浸水想定区域図



水防警報、洪水予報、特別警戒水位
の迅速な発令

浸水想定区域図の公表、ハザードマッ
プの策定等に向けた関係機関との連
携

インターネットなどを活用した分かりや
すく、リアルタイムの情報提供

平成18年6月30日
花月川の浸水想定区域図を公表



筑後川上流部の水環境向上

- ・「ひた水辺環境再生計画(仮称)」を策定し、必要に応じ、三隈堰の一部改築及び導流施設等を整備し、水環境の向上に努めます。



水郷日田を流れる筑後川(三隈川)

日田市街地では、鵜飼いや屋形船等、観光のための河川利用が盛んで、筑後川の水環境への関心が非常に高くなっています。

日田市街部の河川利用の促進

- ・庄手川への分流量の適正化を図り、平常時の流速を低減するとともに、多自然型護岸等を整備し、親水性の向上を図ります。
- ・日田市内の河川は景観に対する配慮が重要であるため、良好な河川景観の創出に向けた環境整備を行います。



台霧の瀬(日田市)

筑後川の親水空間として整備された「台霧の瀬」は、地域住民の発想と参加により造られました。



庄手川沿いの建物(日田市)

庄手川沿いの隈町は、川と建物が調和した歴史的な景観を呈しています。

対話と協働による川づくり

- ・河川に関するきめ細かな情報を地域に提供するとともに、地域の意見を、具体の川づくりに活かしていきます。
- ・地域と連携した河川管理を行うことにより、魅力ある川や地域の実現につながります。



筑後川流域一万人会議

筑後川水系河川整備計画の策定にあたり、128カ所(1次)、26カ所(2次)の会場で、「筑後川流域1万人会議」を開催しました。



住民参加による日田の川づくり

計画、施工、利用、維持管理まで、住民参加で川づくりを行っています。

川と人との係わりの復活

・子どもたちの自然体験活動、環境学習活動の支援策として、日田市、久留米市及び神崎市千代田町においては、住民団体(NPOを含む)及び自治体等と連携して、リバーズスクールを開催しており、今後もこれらの取り組みの支援を継続していきます。



高良川リバーズスクール(久留米市)

川に学び、川に親しむことを目的として、高良川、筑後川(三隈川)、城原川で住民団体(NPOを含む)、市町と連携してリバーズスクールを開催しています。



巨瀬川ゆめプラン(久留米市)

久留米市大橋地区では、学校と連携を図り、子どもたちの「ゆめ」を取り入れた「ゆめプラン」を作成しており、今後も計画作成から利活用まで積極的に学校との連携を図っていきます。

かわまちづくりの推進

・地域の歴史、文化、景観及び観光資源等と調和を図り、地域の活性化・発展につながるよう、「まちを元気にする川づくり」をコンセプトに、まちづくりと一体となった河川整備を進めます。



新しい祭りが始まった花月川(日田市)



人々の利用が増えた花月川(日田市)

花月川(日田市)の河川整備によって、川沿いは、子供からお年寄りまでたくさんの人々に利用されるようになりました。また、観光地「豆田」の町並みと調和した花月川の誕生によって、地域では新たな祭り「千年あかり」も始まりました。

河川情報の共有と情報館の活用

- ・川に関する地域住民の理解を促進するために、広報活動を実施し、報道機関の協力を得ながら、積極的に情報を提供します。
- ・情報を収集及び提供し、地域住民、住民団体（NPOを含む）及び自治体等との情報共有に努めます。



筑後川発見館「くるめウス」(久留米市)

筑後川中下流部における河川利用促進

河川と河川周辺の自然・歴史・文化資源等の有機的なネットワークを構築するため、川・人・まちをつなぐ水辺の拠点として、「筑後川ふれあいスポット川標(かわしるべ)(仮称)」を自治体等と連携して整備します。



川守さんによる河川の管理例



筑後川・矢部川「ノーポイ運動」



地域住民による堤防の除草(甘木市)

流域における連携体制の構築



**100万人の川守りさんが支える
「安らぎと感動の筑後川」へ**

日田地区全体の
河川整備のコンセプト及び
川づくりプランについて
(案)

昨年度の懇談会の経緯

第1回懇談会

(平成18年1月11日)

- 『川・まちへの思い』
- ・懇談会の趣旨説明
- ・日田の川とまちの歴史的変遷

現地視察会

(平成18年2月22日)

- 日田市内視察
- ・小ヶ瀬水路、城内川、豆田
- 日田市街、筑後川

第2回懇談会

(平成18年3月13日)

- 『日田地区の川づくりプランについて』
- ・湛水域の水質報告
- ・川づくりプランイメージ提案

平成18年度へ

河川整備のコンセプトとイメージについて

日田地区全体の現状と課題を踏まえて、日田の川・まちづくりの目標を設定しました。

川づくりの目標

- ・治水安全度の確保(適正な洪水分流)
- ・多様な植生と生物の生息・生育環境の保全
- ・かつての自然環境の再生
- ・湛水域の水環境の改善
- ・利用者が多い散策や釣り等の河川利用への対応
- ・環境学習の場としての利用
- ・周辺施設・景観との調和
- ・歩ける水辺 = 分断されている動線を繋ぎ連続性の確保
- ・歩きながら川の魅力を感じる水辺づくり
- ・庄手川の流量低減と川の姿の改善

まちづくりの目標

- ・水郷日田の魅力 = 水路を活かしたまちの魅力創出
- ・まちの中での「水の流れ」の重要性 = 城内川の水質と景観の改善
- ・豆田町の歩行性の改善 = 車の通行規制
- ・各地区間の連携強化
- ・既存地域資源を活かした動線の確立
- ・新たな地域資源の発掘(まちの魅力再発見)
- ・宿泊客の増加促進(通過型→宿泊型)
- ・地域資源を活用した仕組みの確立

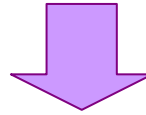
【川づくりとまちづくりの一体的な目標】

- ・暮らしの情景に溶け込んだ佇まい(川とまちのデザイン)
- ・ポイントを絞った「優れた(拠点の)デザイン」導入
- ・水辺の魅力とまちの魅力の一体化(水辺に降りて時間を過ごせるような…)
- ・かつての舟運・川下り。筏流しなどの歴史の伝承

河川整備のコンセプトとイメージについて

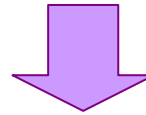
【川づくりとまちづくりの一体的な目標】

- ・暮らしの情景に溶け込んだ佇まい(川とまちのデザイン)
- ・ポイントを絞った「優れた(拠点の)デザイン」導入
- ・水辺の魅力とまちの魅力の一体化(水辺に降りて時間を過ごせるような…)
- ・かつての舟運・川下り。筏流しなどの歴史の伝承



【基調となるデザインコンセプト(川とまちに共通)】

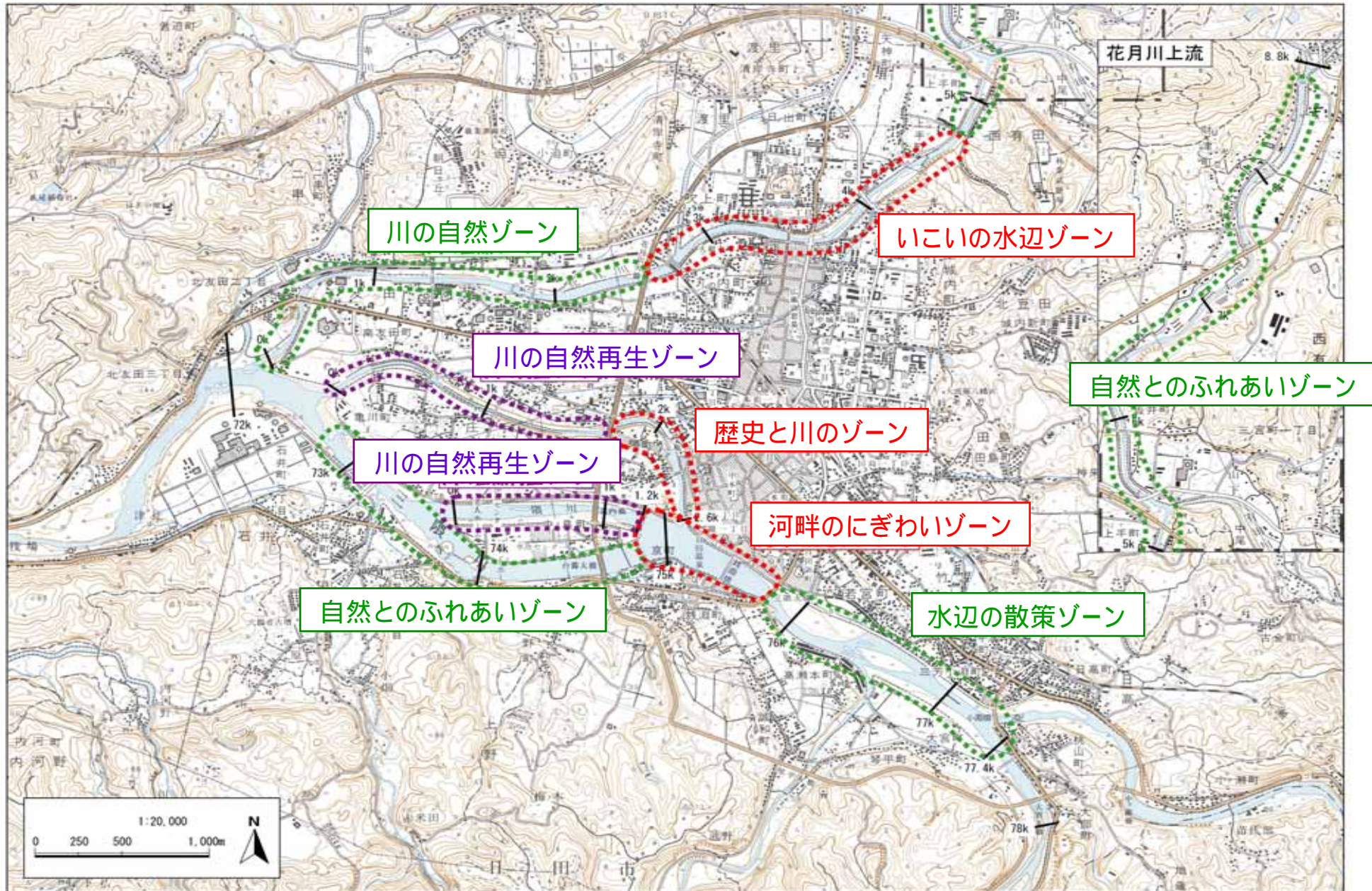
「水郷日田の歴史と暮らしの情景に溶け込んだ川とまちづくり」



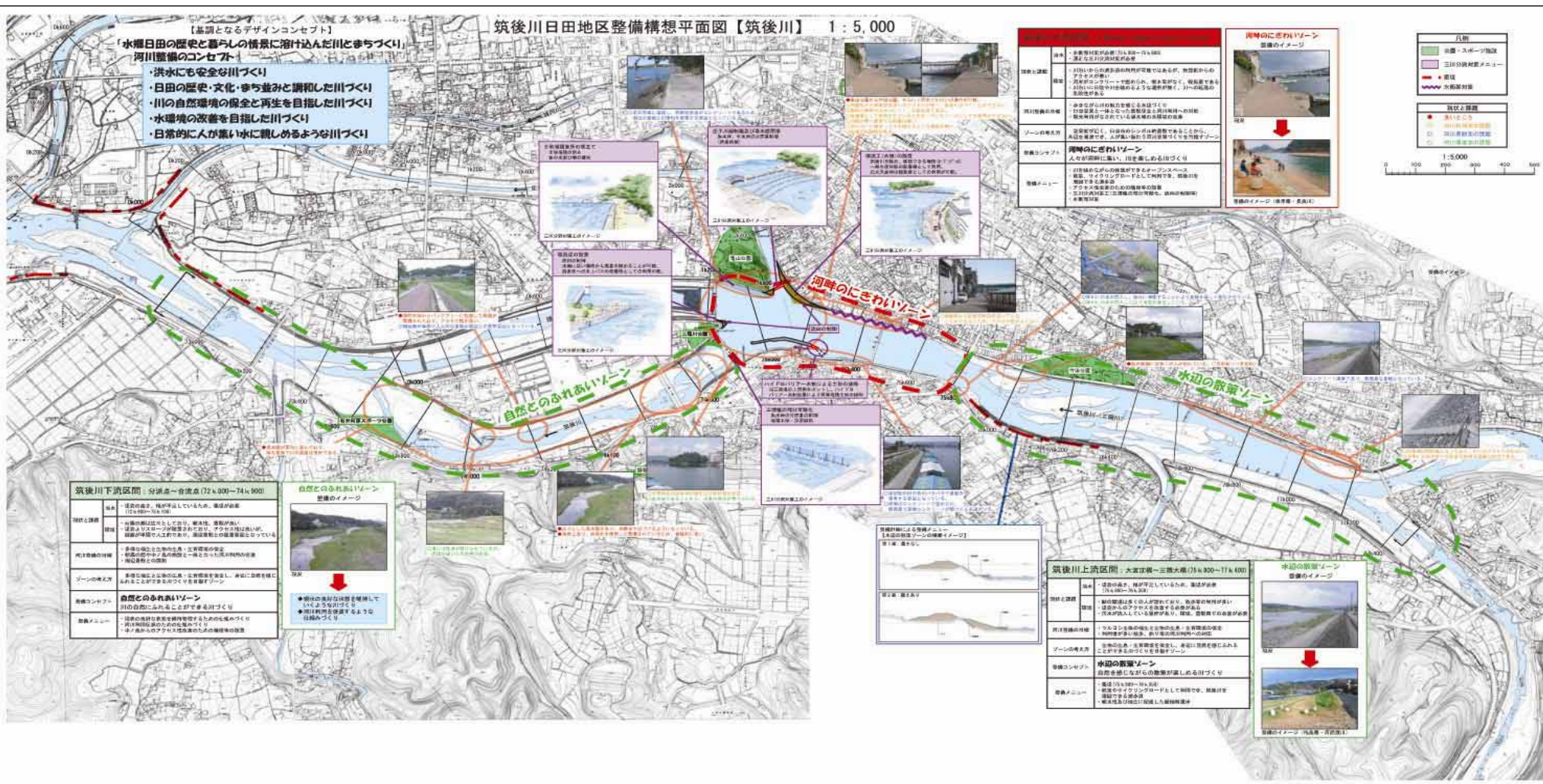
【河川整備のコンセプト】

- ・洪水に安全な川づくり
- ・日田の歴史・文化・街並みと調和した川づくり
- ・川の自然環境の保全と再生を目指した川づくり
- ・水環境の改善を目指した川づくり
- ・日常的に人が集い水に親しめるような川づくり

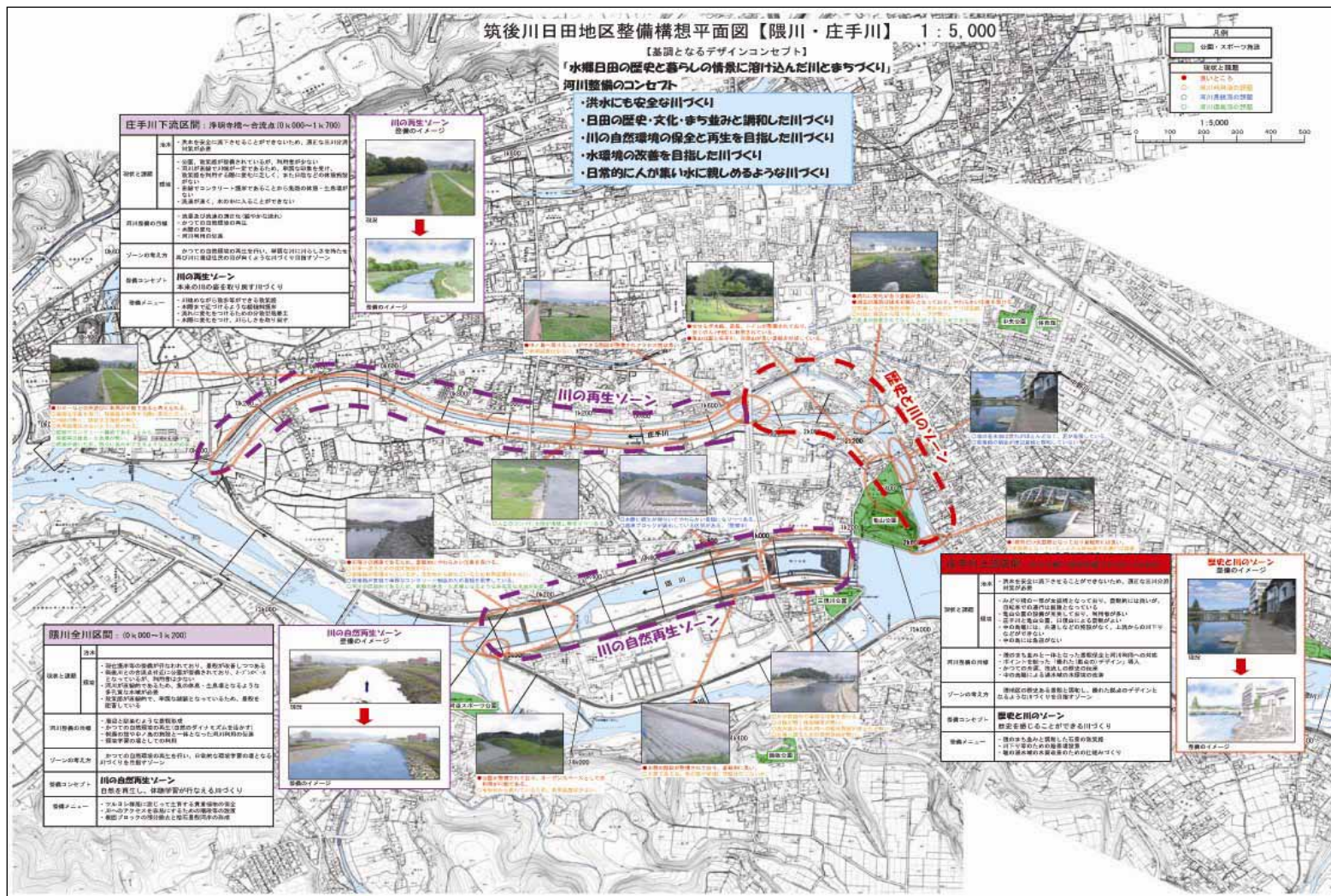
川づくりプラン全体ゾーニング図(素案)



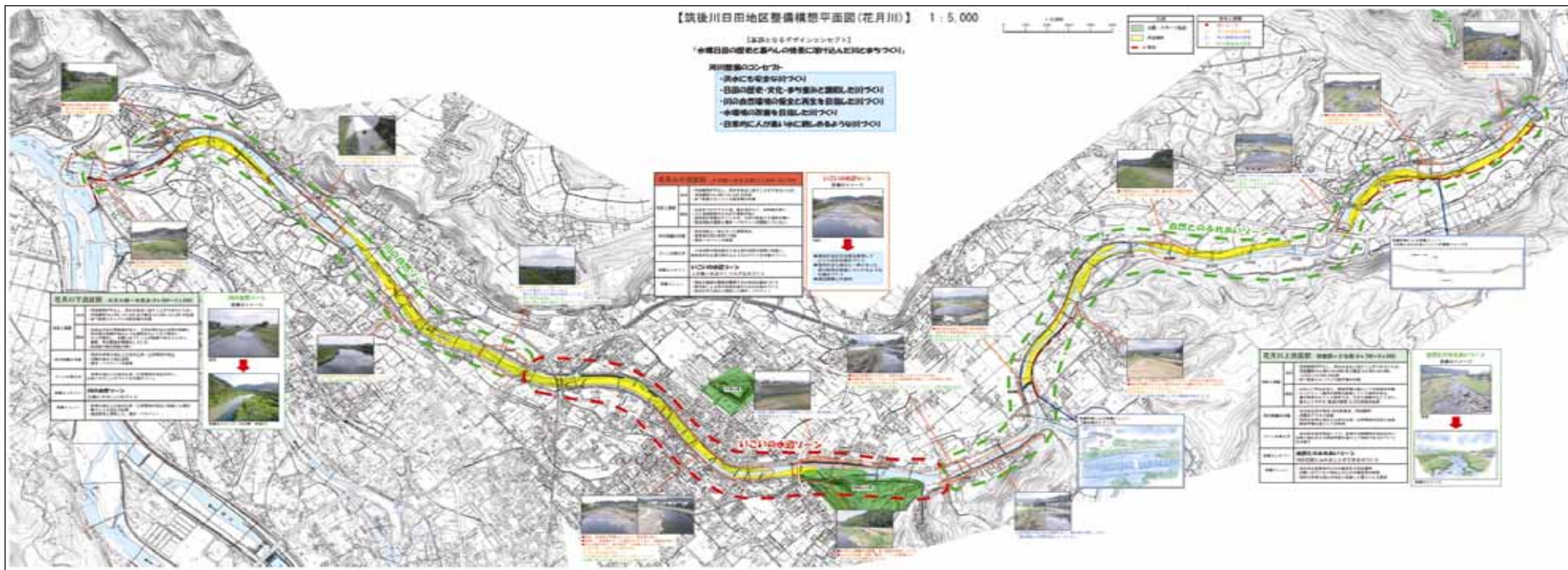
川づくりプラン(素案)【筑後川】



川づくりプラン(素案)【庄手川・隈川】



川づくりプラン(素案)【花月川】



日田の川とまちづくりの 課題・意見について

1. 治水(三川分派)

治水上の課題

- ・洪水時に、庄手川に過大に分流し、流下能力不足の箇所もあり、危険である。
- ・平常時に、庄手川に過大に分流し、水深が深く、流速も速いため、水辺に近づくことが困難。
- ・平常時及び洪水時の三川分派の適正分派対策が必要。

懇談会での意見

- ・市街地区間だけでなく上流の整備も行ってもらいたい。
- ・整備が行われていない場所の整備を行ってもらいたい。
- ・浚渫を行ってもらいたい。
- ・堰の改築や護岸の整備を行ってもらいたい。

アドバイザーからの意見

- ・避難の周知の方法として「半鐘」を復活させてはどうか。
- ・庄手川に洪水を起こさないような蛇行を取り入れると自然な姿に近づけることができるのではないかな。



流速が速く、流量も多い(庄手川)

2. 水環境

水環境の課題

- ・堰湛水域の土砂堆積
- ・堰湛水域の水質の悪化
- ・湛水域の景観の悪化(藻類の繁茂)

懇談会での意見

- ・釣りができるように魚が棲めるような環境にしてほしい。
- ・地域の方は、昔のきれいな川のイメージを持っているので、現在の川はやはり汚い。
- ・先入観として湛水域の水は汚いイメージがある。
- ・水環境調査結果を、化学的な指標ではない表現にしてほしい。
- ・湛水域の水質調査を市民にPRする必要がある。

アドバイザーからの意見

- ・浮泥や藻によって、実際の水質より汚く感じる。
- ・城内川の水質・景観を改善すると素晴らしい水環境になるのではないか。
- ・湛水域調査結果をみると、思ったよりも水質がよいので、ちょっとした工夫でもっと良くなるのではないか。



オオカナダモに浮泥が付着

3. 景観・デザイン

河川景観の課題

- ・コンクリートで整備された直線的な河道で、単調な景観となっている庄手川の川らしい景観の再生（水際の植生回復、流速の変化、河岸の変化、など）
- ・豆田地区や隈地区などの周辺の街並みとの調和

懇談会での意見

- ・城内川をもとの姿に戻すといい川になる。
- ・公園な河川内の看板が景観を損ねているので、景観と調和するような工夫が必要。
- ・庄手川の流速をおさえて、自然な川にできないか。

アドバイザーからの意見

- ・過去の歴史的背景にあった川づくりが大事。
- ・ポイントを絞った「優れた（拠点の）デザイン」が必要。
- ・暮らしの中でどう愛着を持ってもらうかがカギ。
- ・新しい時代（世代）にあった川（水辺）づくりを行っていくべき。



コンクリートで固められた庄手川

4. 河川利活用

河川利用の課題

- ・温泉街周辺の水際の回遊性の確保
- ・人が集まる場所の河川へのアクセス、利便性の改善
- ・人が集まる場所の安全性、バリアフリーへの対応
- ・広い湛水域を利用した、水面利用の促進

懇談会での意見

- ・子供たちが遊べるような水量の確保を行なってほしい。
- ・庄手川を川に入れるように整備してほしい。
- ・庄手川で川下りができるようにしてほしい。
- ・川干は水質浄化や観光面にプラスになると思う。

アドバイザーからの意見

- ・ソフト的対策で、川を活用していくことは可能。
- ・散策したい気持ちを起こさせることが大事。
- ・歩行環境をつないでいく。
- ・用水路網が張り巡らされており、今後活用できる資源と思われる。
- ・各河川及び水路のよさを活かすような整備を行っていく必要がある。
- ・暮らしと密着した水辺づくりを行っていききたい。



橋から遊歩道へのアクセスができない

5. まちづくり

まちづくりとの連携の課題

- ・各地区間の連携強化(豆田地区と隈地区)
- ・日田の観光資源としての筑後川の活用
- ・伝統行事、イベント等での河川利用
- ・まちづくりの中での筑後川の位置づけ

懇談会での意見

- ・川づくりとまちづくりを結び付けていくためにも、市の公共施設を川に面した場所に設置してはどうか。

アドバイザーからの意見

- ・水路の実態調査を行うべき
- ・豆田地区の車も通行に規制が必要である。
- ・日田の歴史、文化をもっと知っておく必要がある。



川とまちが一体となったイベント(千年灯り)

今後の進め方について

今後の川・まち・みらいづくり懇談会の進め方

平成18年～平成20年

平成20年度

かわ・まち・みらいづくり懇談会

検 討

< 各検討部会 >

・三川分派対策部会

・景観検討部会

・河川利活用検討部会

・水環境部会

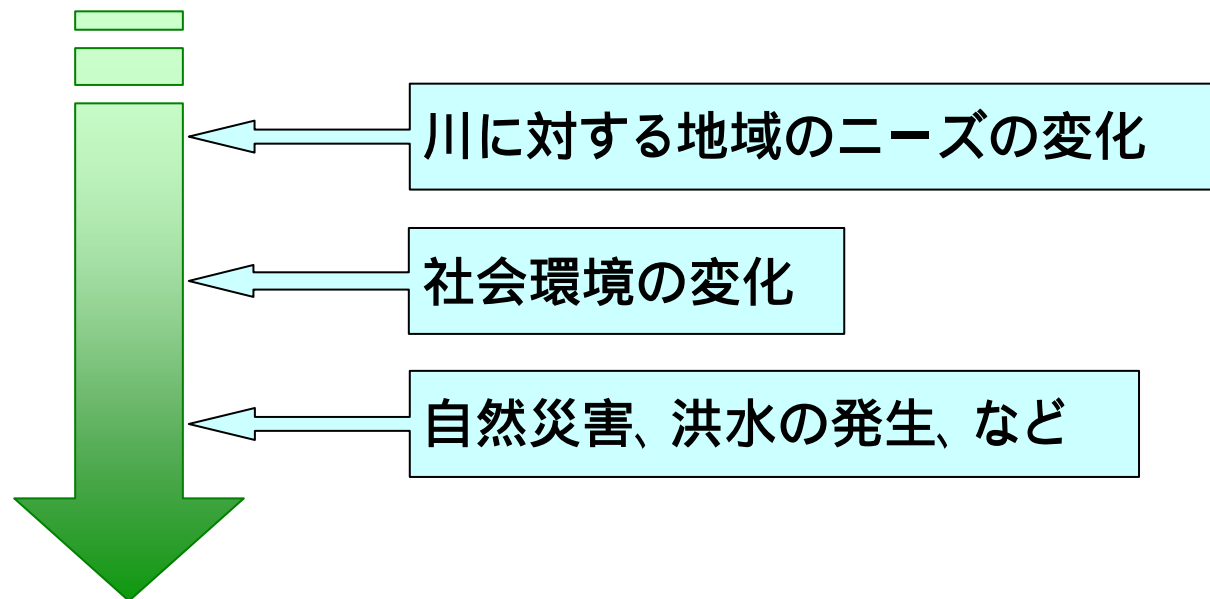
・まちづくり部会

必要に応じて部会を設置

川づくりプランの作成

川づくりプランについて

川づくりプラン(素案): 現時点での川づくりプラン



川づくりプランは、その時々、課題や意見を反映させ、進化していきます。

今年度の懇談会の進め方(案)

これまでの、現状と課題、懇談会での意見や整備コンセプト(案)を踏まえて、
今年度は、下記の**2つ**のことについて、重点的に議論していきましょう。

検討テーマ

三川分派の適正化部会

< 部会メンバー >

・九州大学、国土交通省

- ・平常時の三川分流の実態の把握
- ・庄手川の適正な平常時流量
- ・適正分派の施設対応策の検討
- ・水環境の実態調査
- ・水質改善検討
- ・土砂管理計画検討

庄手かわづくり部会

< 部会メンバー >

・九州工業大学、庄
手川沿川住民の皆様

- ・庄手川の川づくりについて検討
- ・まちづくりと一体となったデザイン検討
- ・利活用の方向性の検討
- ・利活用の具体案
- ・持続的な利用を行うための仕組みづくり

三川分派に関する進め方

庄手川の適正な平常時・洪水時流量

- ・庄手川の流量、水深、流速の観測
- ・庄手川の適正な流量、水深の決定
- ・三川分流量の継続的観測

適正分派の施設対応策の検討

- ・適正分派のための効果的な施設計画

水環境改善策の検討

- ・水質の評価について検討(水質調査、底質調査)
- ・改善策について検討
- ・土砂管理検討



平常時の庄手川適正分派量の決定

適正分派の施設計画の決定

水質改善に向けた取り組みの決定

庄手川かわづくり部会

庄手川の川づくりについて検討

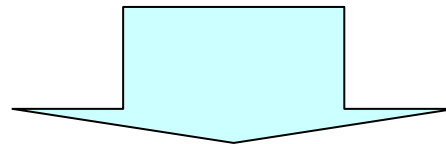
- ・仲間先生によるワークショップによる検討

まちづくりと一体となったデザイン検討

- ・日田市との連携

庄手川の利活用について検討

- ・持続的な利用を行うための仕組みの検討



庄手川の川づくりプラン(案)へ反映
まちづくりへの提案

日田地区における 河川整備の状況の紹介

平成17年度 環境整備

ボート競技



全延長398m

銭淵橋

三隈大橋



川ひらき観光祭りのようす

平成17年度 三隈堰土砂撤去



平成16年度 隈川護岸整備



整備前の隈川（日田市）



整備後の隈川（日田市）

島内堰下流の整備

前



後



平成18年度に予定されている河川整備内容



若宮地区220m程度

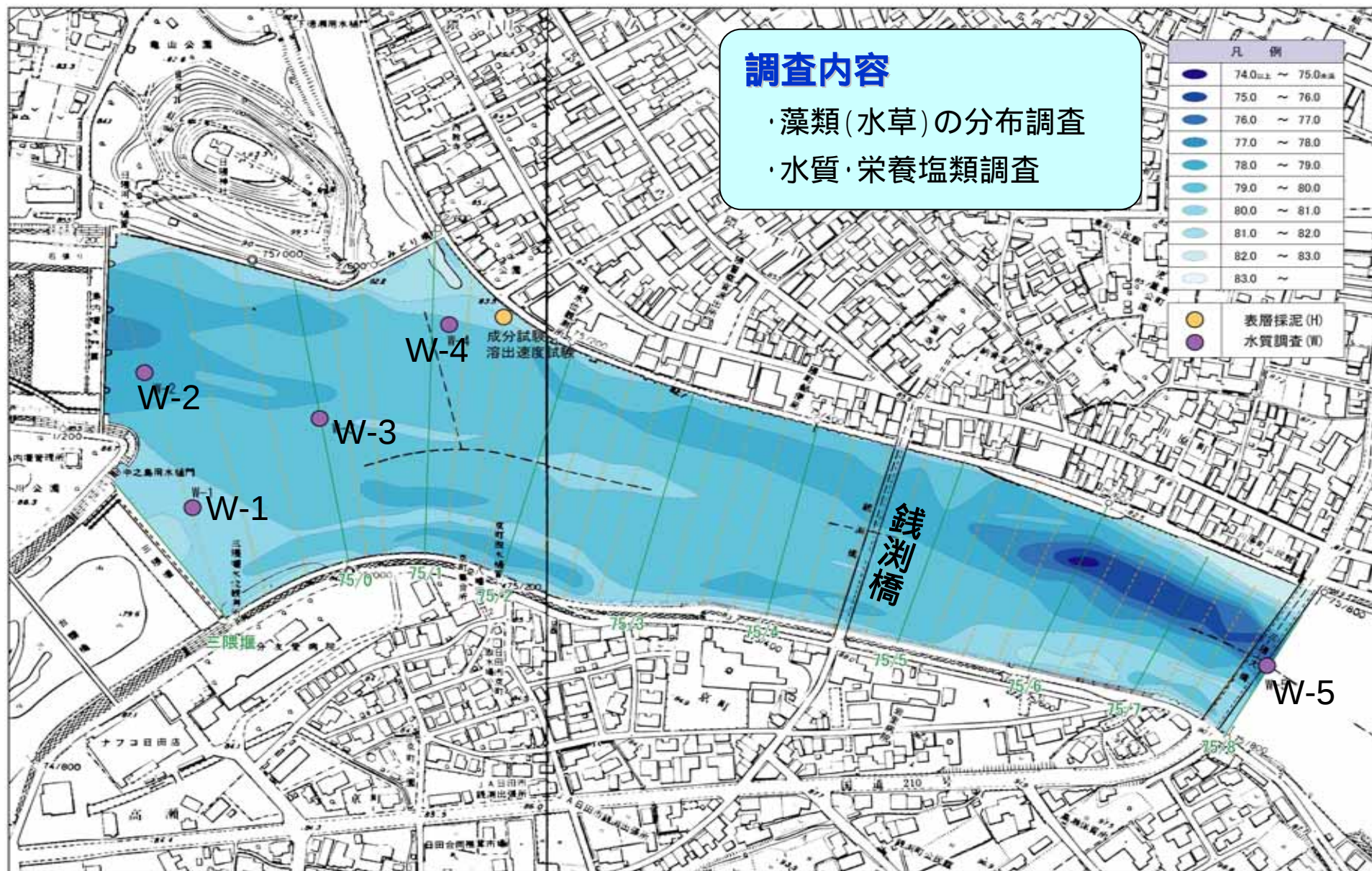
高瀬地区310m程度

三隈大橋



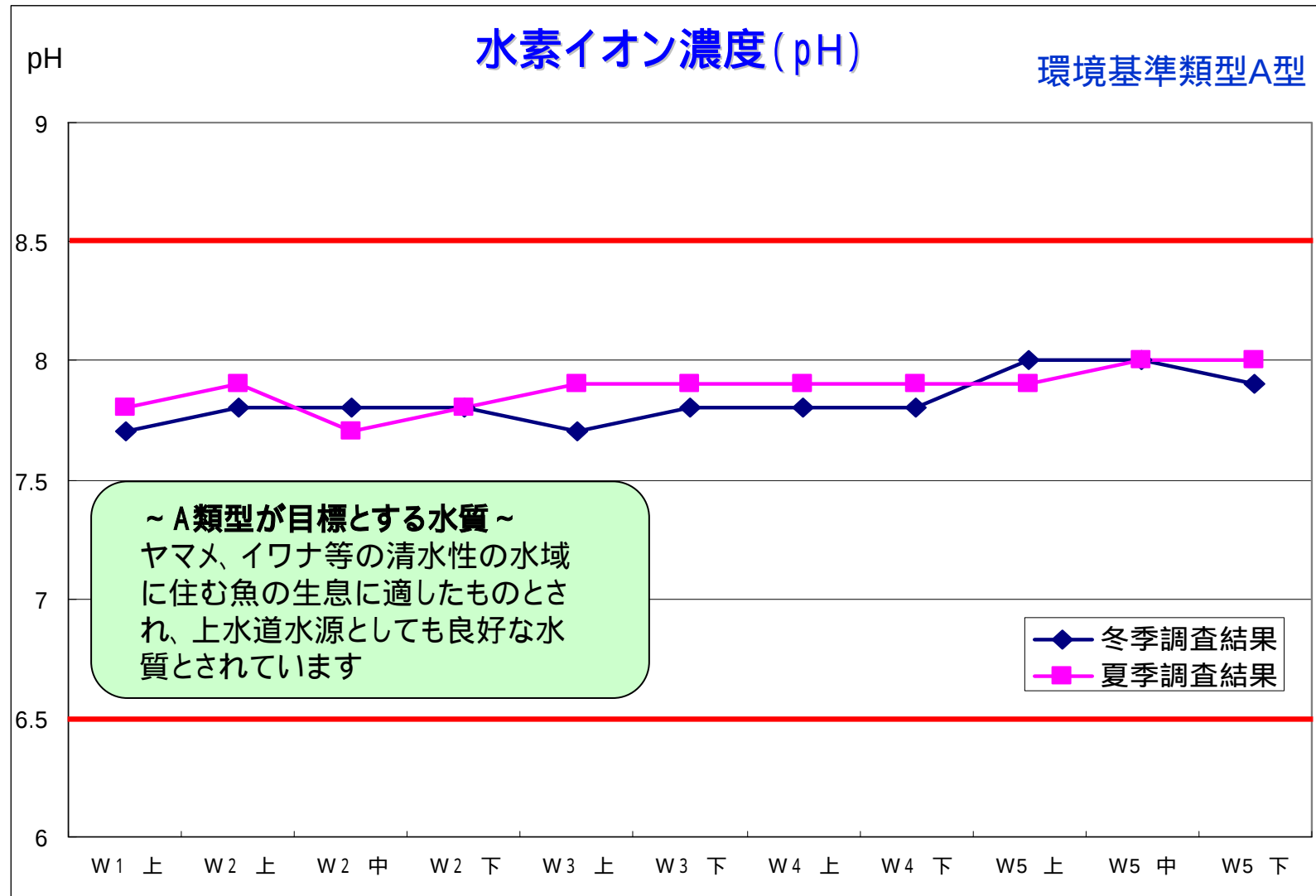
日田地区湛水域 水環境調査結果について

夏季の湛水域水環境調査概要



調査位置図

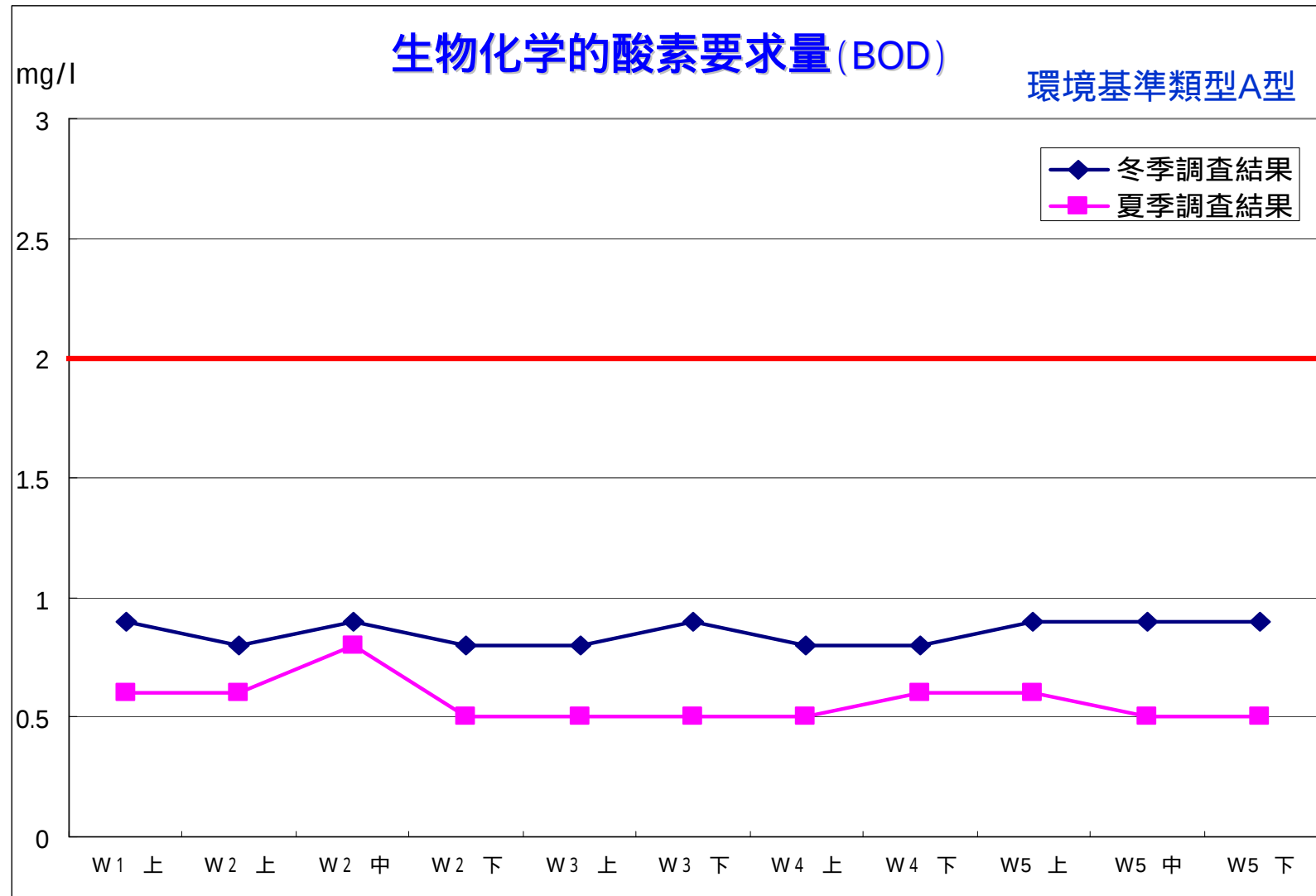
湛水域水環境調査結果【水質】



水素イオン濃度の環境基準は**6.5以上8.5以下**であり、基準を満足しています。

夏季と冬季調査結果で大きな違いはありません。

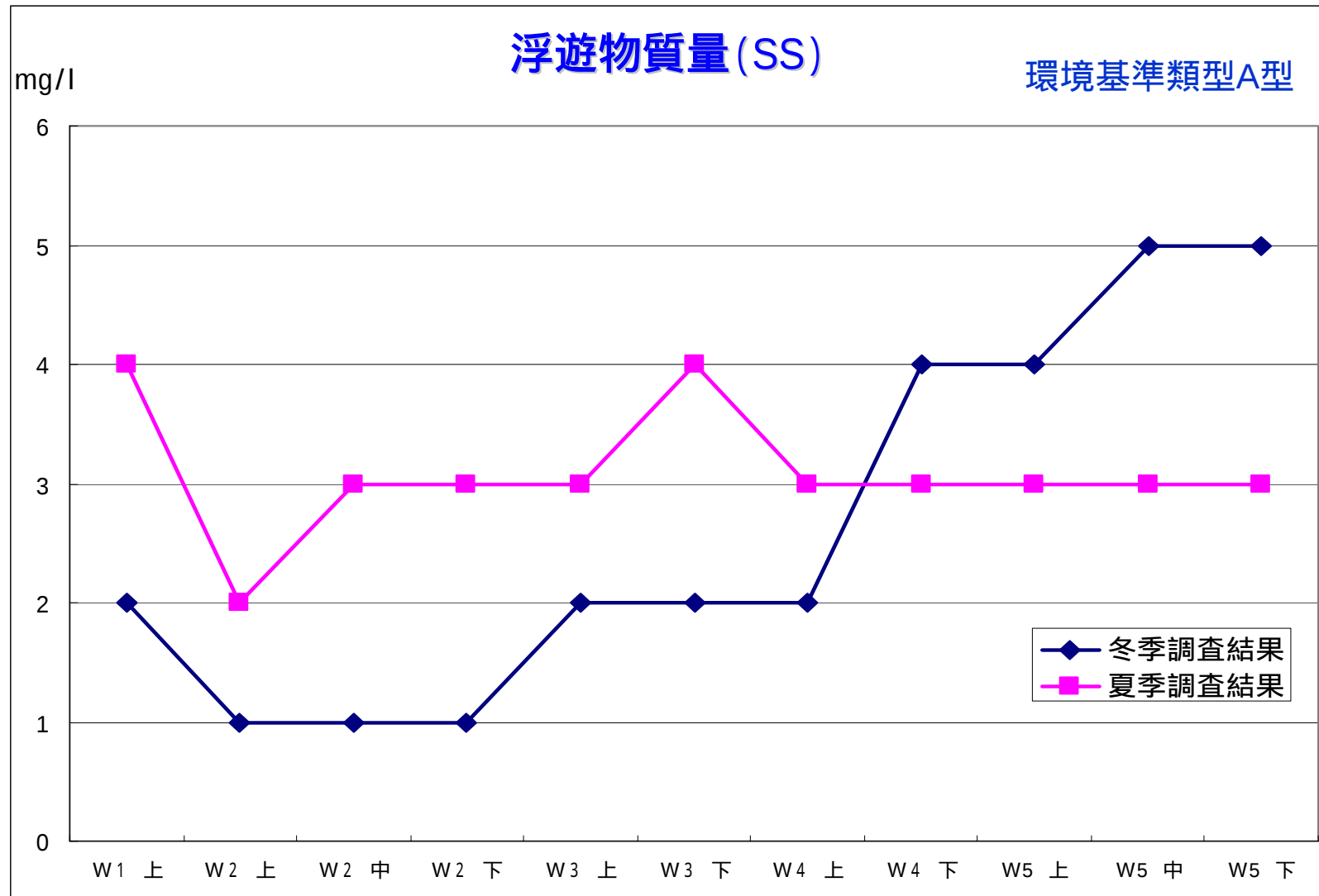
湛水域水環境調査結果【水質】



BODの環境基準は**2mg/l以下**であり、基準を満足しています。

冬季より夏季の方が低い結果となっています。

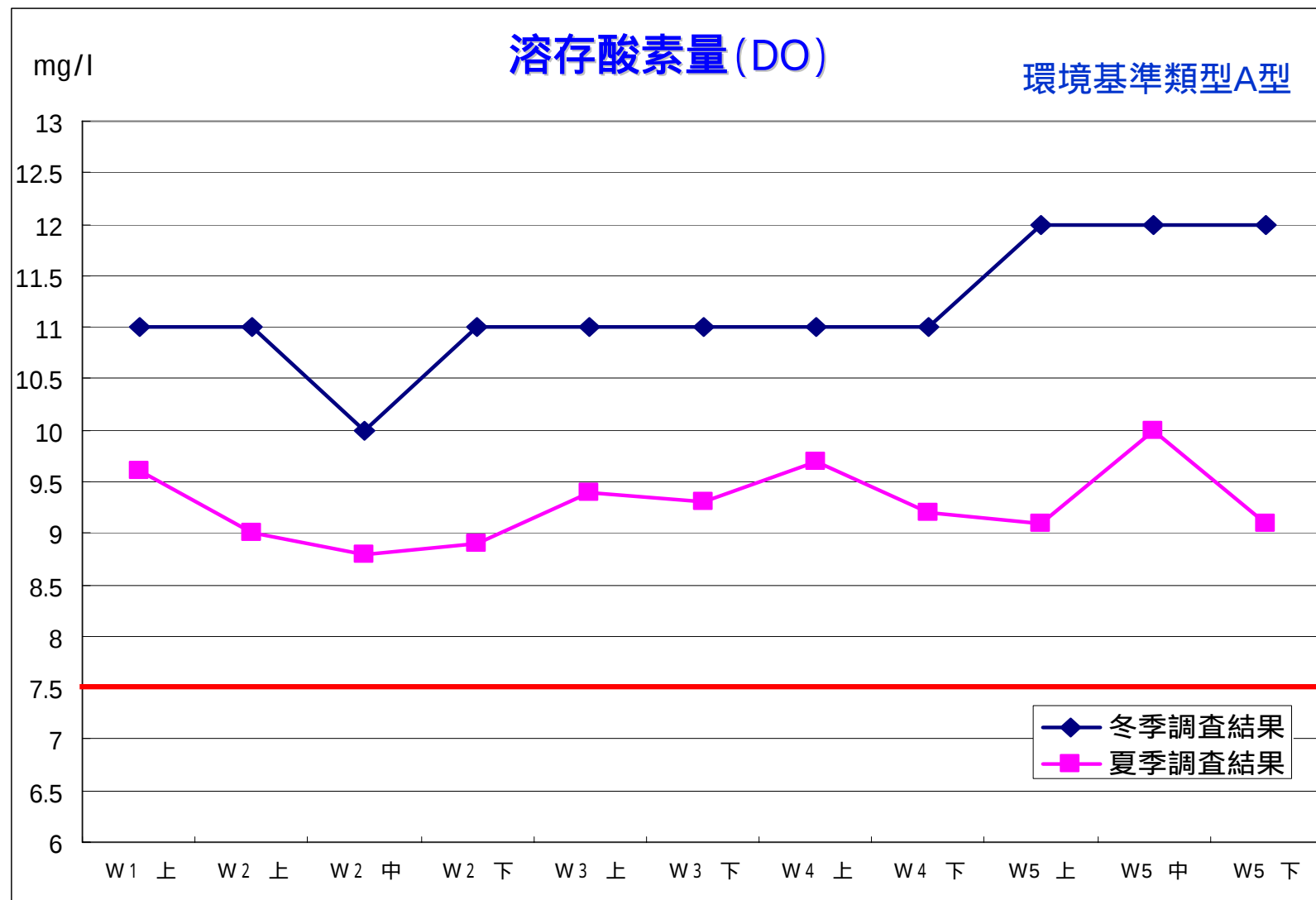
湛水域水環境調査結果【水質】



浮遊物質量の環境基準は**25mg/l以下**であり、基準を満足しています。

夏季の方が、堰上流部では高い値となっています。

湛水域水環境調査結果【水質】



DOの環境基準は7.5以上であり、基準を満足しています。

夏季の方が、冬季よりも値が低く、酸素量が少ない状況です。

湛水域水環境調査結果【体感指標】

透視度	>100cm	>100cm
透明度	2.0m以上 (水深3.8)	3.6m以上 (水深3.6)
臭 気	無臭(夏季)	
濁 度	2.0(夏季)	

透視度	>100cm	>100cm
透明度	2.1m以上 (水深2.1)	2.0m以上 (水深2.0)
臭 気	無臭(夏季)	
濁 度	2.0(夏季)	

全調査箇所が無臭である

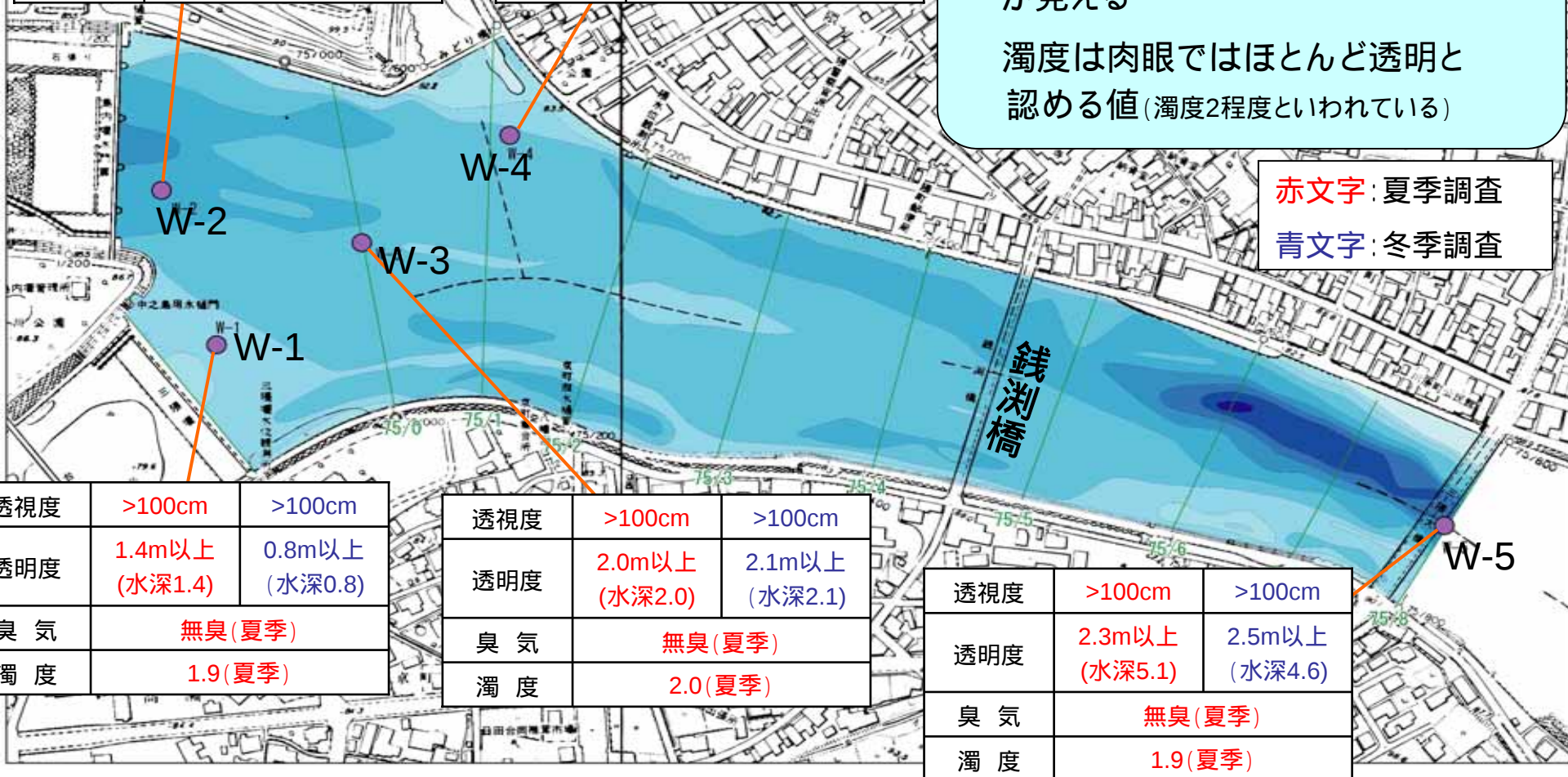
透視度は良好な値を示す

透明度はほとんどの場所で川底が見える

濁度は肉眼ではほとんど透明と認める値(濁度2程度といわれている)

赤文字: 夏季調査

青文字: 冬季調査



透視度	>100cm	>100cm
透明度	1.4m以上 (水深1.4)	0.8m以上 (水深0.8)
臭 気	無臭(夏季)	
濁 度	1.9(夏季)	

透視度	>100cm	>100cm
透明度	2.0m以上 (水深2.0)	2.1m以上 (水深2.1)
臭 気	無臭(夏季)	
濁 度	2.0(夏季)	

透視度	>100cm	>100cm
透明度	2.3m以上 (水深5.1)	2.5m以上 (水深4.6)
臭 気	無臭(夏季)	
濁 度	1.9(夏季)	

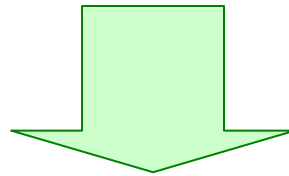
湛水域水環境調査結果【藻類の分布】



湛水域水環境調査結果のまとめ

夏季の調査結果まとめ

- ・藻類の繁殖状況は冬季よりも深い水深まで分布している。
- ・水質は環境基準を満足しており、良好な河川水質結果である。
- ・臭気は各地点とも無臭である。
- ・透視度、透明度、濁度とも良好である。



BOD、SSなどの化学的指標や透視度、透明度などの体感指標において、冬季と夏季で大きな差はありません。

藻類の分布範囲は、夏季と冬季で大きな差はありません。

年間を通して、良好な河川水質であるといえます。